

## IV. トライアル事業の報告

---

# 1. 事業概要

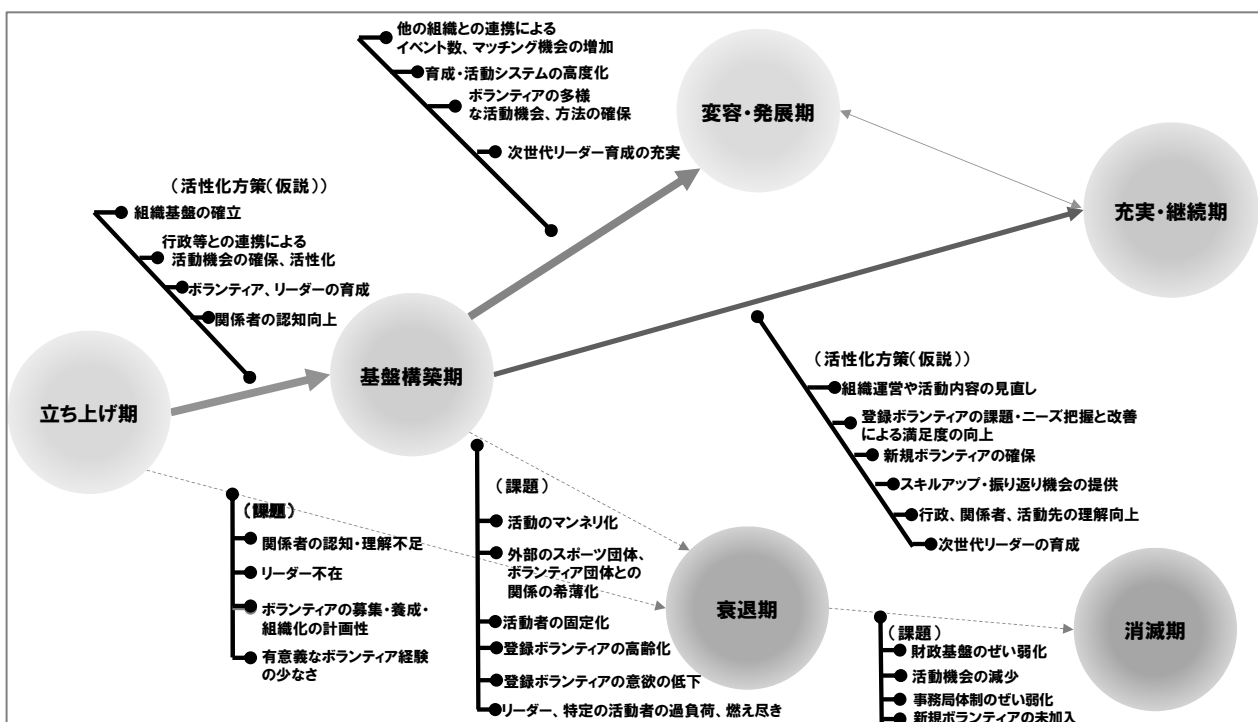
## 1.1 事業目的

トライアル事業は、地域におけるスポーツボランティア組織等を活性化するための具体的な方策を検討、提案することを目的とし、試行的な事業の実施を通して、課題及び活性化方策の検証を行った。

## 1.2 スポーツボランティア組織課題及び活性化方策の仮説

スポーツボランティア組織の課題は、組織のライフサイクルによって異なることが想定される。したがって、スポーツボランティアのライフサイクルを「立ち上げ期」「基盤構築期」「変容・発展期」「充実・継続期」「衰退期」「消滅期」に分類し、それぞれ課題及び活性化方策の仮説を整理した。

図表 3-1 スポーツボランティア組織のライフサイクル



笹川スポーツ財団・山口泰雄(2012)「スポーツボランティア団体の活動に関する調査」より作成

## 事業の対象及び内容

スポーツボランティア組織のライフサイクルを考慮した上で、以下の三つの組織・団体を選定し、トライアル事業を実施した。

図表 3-2 トライアル事業の対象及び内容

自治体	事業の狙い／ライフサイクル	事業連携先	実施内容	協力団体
岡山県	スポーツボランティアの育成及び組織の創設支援 【立ち上げ期→基盤構築期】	(公財)岡山県体育協会	・募集、養成プログラムの設計 ・スポーツボランティア研修会の開催 ・スポーツボランティア・リーダー養成研修会の開催 ・スポーツボランティア普及シンポジウムの開催	NPO法人日本スポーツボランティアネットワーク
広島市	既存のスポーツイベントボランティアの活動活性化支援 【基盤構築期→変容・発展期】	(公財)広島市スポーツ協会	・活動の課題・ニーズ調査の実施 1) 登録ボランティア: 質問紙調査 2) 市スポーツ協会: ヒアリング調査 3) イベント主催者: ヒアリング調査 (サンフレッチェ広島、広島東洋カープ) ・スポーツボランティア啓発シンポジウムの開催 ・若手ボランティアの募集・養成研修会の設計・検討	広島経済大学 松本耕二研究室
仙台市	中高生のスポーツボランティア育成講座の開設支援 【基盤構築期→充実・継続期】	市民スポーツボランティア SV2004 グランディ・21 ボランティア	・中高生のボランティア参画・研修プログラムの構築 ・宮城県(仙台市)の既存組織の連携強化 1) ベガルタ仙台ボランティアクラブ 2) 仙台ベルフィーユボランティア 3) 仙台89ERSボランティア 4) 市民スポーツボランティアSV2004 5) グランディ・21ボランティア 他	市民スポーツボランティアSV2004 グランディ・21ボランティア

事業連携先の団体概要は、以下のとおりである。

### ○公益財団法人岡山県体育協会

岡山県体育協会は、2012年に財団法人から公益財団法人に名称変更し、57競技団体、26市町村体育協会が加盟している(2014年6月現在)。県内のスポーツ現場でスポーツボランティアに取り組むきっかけを県民に提供したいと考えている。

### ○公益財団法人広島市スポーツ協会

1994年広島アジア競技大会を機に、1998年からスポーツイベントボランティアの育成に取り組み、現在「スポーツイベントボランティア登録派遣事業」の名称で、ボランティアの登録派遣を実施している(登録者260人、2014年8月現在)。主な派遣先は、広島東洋カープとサンフレッチェ広島のホームゲームである。

### ○市民スポーツボランティア SV2004

1998年からスタートしたサッカー「ブランメル仙台(現ベガルタ仙台)」のボランティアや2001年の宮城国体、2002年FIFAワールドカップ宮城大会のボランティア経験者の有志が集まり、幅広いスポーツをサポートする目的で2004年に発足したボランティア組織である。

### ○グランディ・21 ボランティア

2003年の宮城県スポーツ振興基本計画で明文化されている「スポーツボランティアの育成」のために、宮城県が2004年に設置し、ボランティアが運営を行う日本ではあまり例のない官設完全民営型のボランティア組織である。活動の範囲は県のスポーツ施設に限られており、2002年FIFAワールドカップ宮城大会時に宮城スタジアムで活動したボランティアが中心となっている。

## 2. トライアル事業結果

### 2. 1 スポーツボランティアの育成及び組織の創設支援（岡山県）

#### (1) トライアル事業の目的

新たなスポーツボランティア組織の立ち上げ期の事例として、募集、養成、普及等の一連の流れを検証し、一般化することで、他県でも参考になる事例とすることを目的とした。

また、岡山県体育協会として、本事業をきっかけに、県内各地域・活動現場で、スポーツボランティアに関する取組を考え、スタートさせるきっかけにすることも併せて目的とした。

#### (2) トライアル事業の実施体制

公益財団法人岡山県体育協会と連携し、NPO 法人日本スポーツボランティアネットワークの協力を得て実施した。

#### (3) スケジュール

- 2014年 6月 1日(日) 岡山県体育協会主催「スポーツボランティア講演会」※関連事業
- 2014年 9月 21日(日) スペシャルオリンピックス日本主催「スポーツボランティア研修会」※関連事業
- 2014年 11月 9日(日) 「スポーツボランティア研修会」
- 2014年 12月 7日(日) 「スポーツボランティア・リーダー養成研修会」
- 2014年 12月 20日(土) 「スポーツボランティアシンポジウム in 岡山」

#### (4) 事業内容の詳細

##### ① 事業の周知

以下の団体経由で、事業の周知と参加者の募集を行った。

図表 3-3 事業の周知と参加者の募集

発信団体	方法
笹川スポーツ財団	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 岡山県体育協会主催「スポーツボランティア講演会」(6/1 参加者 59 人)での告知</li> <li>・ 笹川スポーツ財団ウェブサイトでの告知</li> </ul>
岡山県体育協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主催事業でのチラシ配布 アシスタントマネジャー養成講習会(17 人) 桃スポキッズチャレンジフェスタの保護者・指導者(約 80 人))</li> <li>・ 普及委員会委員へ関係各所への広報依頼 委員構成: 学識経験者、市町村体育協会役員 スポーツ少年団認定育成員、健康運動実践指導者</li> <li>・ 岡山県体育協会ウェブサイトでの告知</li> </ul>
日本スポーツボランティアネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登録会員(1,200 人)へのメールニュースの配信</li> <li>・ 日本スポーツボランティアネットワークのウェブサイトでの告知</li> </ul>

図表 3-4 事業の岡山県内広報先リスト(日本スポーツボランティアネットワーク発信)

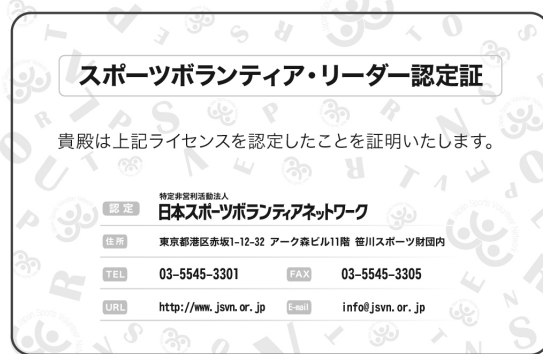
区分	広報先
県内スポーツ関係者	市町村行政スポーツ担当課、市町村スポーツ推進委員協議会、市町村体育協会競技団体、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ 県レクリエーション協会加盟団体、県障害者スポーツ協会
県内マラソン大会	そうじゃ吉備路マラソン実行委員会事務局 倉敷国際トライアスロン大会実行委員会事務局 岡山吉備高原車いすふれあいロードレース事務局
トップスポーツチーム	ファジアーノ岡山、岡山シーガルズ
教育機関	岡山大学、四国学院大学、吉備国際大学、福山市立大学、倉敷芸術科学大学 環太平洋大学、川崎医療福祉大学、岡山県立大学、就実大学
その他	スペシャルオリンピックス岡山、おかやま NPO ボランティアセンター

② スポーツボランティア養成プログラムの開催

スポーツボランティアに関する知識や技術の習得を目的に、日本スポーツボランティアネットワークの規程に基づき、スポーツボランティア養成プログラムを計 2 回開催した。

図表 3-5 スポーツボランティア養成プログラム

研修会人	概要
スポーツボランティア研修会	日時・場所: 11月9日(日) 13:00~16:00 岡山大学
	参加者数: 42人
	主な講習内容: 1. スポーツボランティアについて 2. コミュニケーションスキルについて ※受講者には「スポーツボランティア研修会修了証」を発行
スポーツボランティア・リーダー養成研修会	日時・場所: 12月7日(日) 10:00~16:30 岡山大学
	参加者数: 23人 ※スポーツボランティアの活動経験がある高校生以上で、スポーツボランティア研修会(11月9日の研修会、及び他でスポーツボランティアネットワークが開催した研修会の修了者)
	主な講習内容: 1. ボランティア・リーダーについて 2. 理論(スポーツ政策、リーダーシップ) 3. コミュニケーションスキルについて ※認定者には「スポーツボランティア・リーダー認定証」を発行



「スポーツボランティア・リーダー認定証」

### ③ スポーツボランティアシンポジウムの開催

スポーツボランティアの可能性について、事例報告や参加者同士での意見交換を行い、市民が主体となるスポーツボランティアの在り方について理解を深め、スポーツボランティアの普及を目的として開催した。

図表 3-6 スポーツボランティアシンポジウム 2014 in 岡山

『スポーツボランティアシンポジウム 2014 in 岡山』	
日時・場所:	12月20日(土) 13:00~16:00 岡山大学
参加者数:	36人
主な内容:	1.基調講演 「我が国のスポーツボランティアの現状~これからのスポーツボランティアの在り方~」 2.パネルディスカッション 「岡山県のスポーツボランティアの可能性を探る」 3.グループワーク 「ワールドカフェ:スポーツイベントを成功させるために私たちができること」



パネルディスカッション



ワールドカフェ

④ 参考：同時期に開催されたスポーツボランティア関連事業

本年度岡山県内で、本トライアル事業と連携し、以下のスポーツボランティア関連事業が実施された。

図表 3-7 本事業と連携した関連事業

事業人	概要
スポーツボランティア講演会	主 催：岡山県体育協会 日 時・場 所：6月1日(日) 13:00～16:30 岡山ロイヤルホテル 参 加 者：59人
スポーツボランティア研修会	主 催：スペシャルオリンピックス日本 日 時・場 所：9月21日(日) 13:30～16:30 きらめきプラザ 参 加 者：17人  ※スペシャルオリンピックス日本は、日本スポーツボランティアネットワークの正会員であり、11月9日の本事業主催の研修会と同内容の研修会を開催した。本研修会を受講した17人も、12月7日の「スポーツボランティア・リーダー養成研修会」の受講資格を有する。

⑤ その他

岡山県体育協会主催の「スポーツボランティア講演会」に参加していた岡山県真庭市生活環境部スポーツ・文化振興課の担当者の依頼により、市の予算で以下の研修会が実施された。

図表 3-8 真庭市スポーツ少年団指導者研修会

『真庭市スポーツ少年団指導者研修会』	
日 時：	2015年1月22日(木)19:30～20:30
参 加 者：	61人
講 演：	「我が国のスポーツボランティア～現状と意義、これからの可能性を考える～」



大岡山大学実務経験者スポーツにおけるボランティア活動活性化のための調査研究

### スポーツボランティア シンポジウム 2014 in 岡山

地域においてスポーツボランティアが活動する総合型地域スポーツクラブをはじめ、障害者スポーツやフットボールチームなどに限らず、岡山県でも都市型ボランティアの増加が顕著。スポーツボランティアにとって多くの活動機会が想定されます。岡山県にスポーツボランティアに関する個人や組織の担当者、行政、企業、有識者などそれぞれの立場の人が一堂に会し、活動報告や意見交換を行うことで、これからのスポーツボランティアのあり方を話し、広げ合に繋がる機会です。スポーツボランティアをまだやったことがない方も、是非この機会にご参加ください。

日 時：12月20日(土)13時～16時  
場 所：岡山大学(岡山市津島中2-1-1)〈裏面参照〉  
参加費：無料 定員：100名 申込：ホームページまたはFAX  
主催：日本スポーツボランティアネットワーク 共催：皆川以博研究会  
協賛：岡山県体育協会 後援：岡山大学

【プログラム】(予定)  
基調講演  
「我が国のスポーツボランティアの現状」  
～これからのスポーツボランティアの在り方～  
講師：皆川以博研究会 スポーツ政策研究所 副主任研究員

パネルディスカッション  
「岡山県にスポーツボランティアの可能性を探る」  
(パネリスト) 大木 裕志 氏 おかやまマラソン実行委員会 事務局長  
藤本 直子 氏 スペシャルオリンピックス日本・岡山 ボランティア委員長  
山本 圭一 氏 岡山大学 体育教育学科 准教授  
(コーディネータ) 二宮 龍也 氏 文政大学 准教授/ 日本スポーツボランティア・アシエーション 理事

グループワーク  
「ワールドカフェ：スポーツイベントを成功させるために私たちができること」  
※このセッションは無料です。お昼の休憩時間まで参加いただけます。

特定非営利活動法人 日本スポーツボランティアネットワーク  
〒107-6011 東京都港区赤坂1-12-32 アーク赤坂ビル1階(皆川以博研究会内)  
TEL 03-5545-3301 FAX 03-5545-3305 http://www.jsvn.or.jp/ E-mail:info@jsvn.com

「スポーツボランティアシンポジウム 2014 in 岡山」募集チラシ

## 2. 2 既存のスポーツイベントボランティアの活動活性化支援（広島市）

### (1) トライアル事業の目的

既存のスポーツイベントボランティア登録者\*の活動満足度の向上のために、課題の認識及び解決を図るとともに、若年層のボランティアを確保することによる登録者の拡大と募集のノウハウを蓄積することによって、既存のボランティア組織に対する活動継続可能な支援策を検証し一般化することを目的とした。

※公益財団法人広島市スポーツ協会が実施する「スポーツイベントボランティア登録派遣事業」に登録しているボランティアのこと(登録者 260 人、2014 年 8 月現在)。

### (2) トライアル事業の実施体制

公益財団法人広島市スポーツ協会と連携し、広島経済大学松本耕二研究室の協力を得て実施した。

### (3) スケジュール

2014 年 5 月 13 日(火) 広島市スポーツ協会へのヒアリング調査  
 2014 年 8 月 11 日(月) 広島東洋カープ ボランティア担当者へのヒアリング調査  
 2014 年 8 月 31 日(日) サンフレッチェ広島 ボランティア担当者へのヒアリング調査  
 2014 年 8 月 31 日(日) 「スポーツボランティアシンポジウム 2014 in 広島」  
 2015 年 1 月 24 日(土) 「若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA」  
 2015 年 1 月下旬 「スポーツイベントボランティア登録者の活動に関するアンケート調査」の実施

### (4) 事業内容の詳細

#### ① 事業の周知

以下の団体経由で、事業の周知と参加者の募集を行った。

図表 3-9 事業の周知と参加者の募集

発信団体	方法
笹川スポーツ財団	・笹川スポーツ財団ウェブサイトでの告知 ・中国新聞社へのリリース配信
広島市スポーツ協会	・スポーツイベントボランティア登録者(260 人)への案内 ・広島市スポーツ協会加盟団体(50 団体)・役員等への案内 ・中国新聞社への案内 ・市内大学(12 大学)への直接訪問によるセミナー(1/24)の説明・案内 ・広島市スポーツ協会ウェブサイトでの告知
広島東洋カープ	・ホームゲーム(10 日分)来場者へのチラシの配布 (シンポジウム(8/31)チラシ 6,000 部(300 部×2 ゲート×10 日分))
サンフレッチェ広島	・ホーム最終戦(12/6)来場者へのチラシの配布 (セミナー(1/24)チラシ 3,000 部)
広島経済大学 松本耕二研究室	・広島経済大学内での案内



## ② 関係者へのヒアリング調査

広島市スポーツ協会及びイベント主催者を対象としてヒアリング調査を実施した。対象と概要は以下のとおりである。

**図表 3-10 関係者へのヒアリング調査**

対象	日時	概要
広島市スポーツ協会	5月13日(火) 16:00~18:00	広島市のスポーツボランティア登録派遣制度ができて14年目を迎えることから、現状を把握し、運営主体である広島市スポーツ協会が考えるボランティア運営に関する課題やニーズを確認した。
広島東洋カープ	8月11日(月) 17:00~18:00	ボランティアに対する現状認識を確認するとともに、課題とニーズを把握することによって、今後の活動の在り方を探った。
サンフレッチェ広島	8月31日(日) 11:00~12:00	

## ③ 「スポーツボランティアシンポジウム 2014 in 広島」の開催

活動上関わりのある、トップチームのボランティア担当者、ボランティアの代表者、施設管理者、スポーツボランティアに詳しい専門家等が一堂に会し、一般参加者も含めて、今後の広島のスポーツボランティアの可能性について考える機会とした。

**図表 3-11 スポーツボランティアシンポジウム 2014 in 広島**

『スポーツボランティアシンポジウム 2014 in 広島』	
日 時:	8月31日(日) 13:30~16:30
会 場:	メルパルク広島
参加者数:	86人
主な内容:	1. 基調講演 「我が国のスポーツボランティアの現状 ～これからのスポーツボランティアの在り方～」 2. 広島市の「スポーツ・サポート・センター」 概要報告 3. パネルディスカッション 「広島市のスポーツボランティアの 可能性を探る」

#### ④ 「若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA」の開催

若年層登録者の確保が課題の一つとして挙げられていることから、市内大学生を中心とした若者世代を対象に、スポーツボランティアの正しい理解と認識を提示し、今後の登録者数の確保と若年層への活動機会の提供を目的として開催した。

**図表 3-12 若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA**

『若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA』	
日 時:	1月24日(土) 9:30~13:00
会 場:	総合屋内プール(広島ビッグウェーブ) 会議室
参加者数:	35人
主な内容:	1.講演①「スポーツボランティア概論 ~入門編~」 2.講演②「楽しさの共有~ボランティア活動におけるコミュニケーションワーク」 3.講演③「スポーツボランティアのネットワーク ~地域から全国へ~」 4.活動報告①「広島市スポーツイベントボランティア」 5.活動報告②「サンフレッチェ広島と広島市スポーツイベントボランティア」 6.募集情報①「広島ライトニング ボランティア」※1 7.募集情報②「広島ドラゴンフライズ ボランティア」※2

※1 広島ライトニングは、プロバスケットボールリーグのbjチャレンジリーグに所属

※2 広島ドラゴンフライズは、ナショナル・バスケット・リーグ(NBL)に所属



若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA

#### ⑤ 「スポーツイベントボランティア登録者の活動に関するアンケート調査」の実施

既登録者を対象としたアンケート調査を実施した。結果については、2013年11月に広島経済大学松本耕二研究室が実施した、同様のアンケート調査結果と比較分析した。

**図表 3-13 スポーツイベントボランティア登録者の活動に関するアンケート調査**

時 期	2015年1月14日(水)~30日(月)
配布数	スポーツイベントボランティア登録者 250人
回収数	175票(70.0%)
調査内容	登録年数、過去1年間の活動状況、参加動機、活動理由、広島市スポーツイベントボランティア以外のボランティア活動状況(スポーツ以外も含む)、ボランティアの活動希望等

## 2. 3 中高生のスポーツボランティア育成講座の開設支援（仙台市）

### (1) トライアル事業の目的

スポーツの「する」「見る」「支える」の3要素のうちの「支える」ことの大切さを、中学生、高校生に学んでもらい、支える活動であるスポーツボランティアへの理解の促進と、実践活動の提供を行うことで、どの団体でも課題となっている、若手ボランティアの育成・確保の解決策を見つけることを目的とした。また、併せて仙台市に複数あるスポーツボランティア組織・団体の有機的な横のつながりを構築することも目的とした。

### (2) トライアル事業の実施体制

市民スポーツボランティア SV2004、グランディ・21 ボランティアと連携して実施した。

### (3) スケジュール

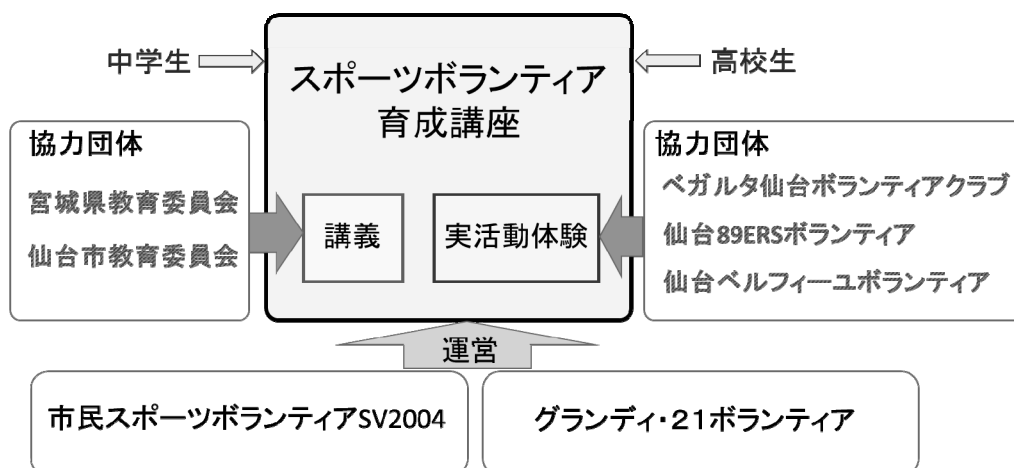
2014年 9月1日(月)～10月15日(水)	募集
2014年 10月11日(土)・19日(日)	説明会 兼 第1回講義
2014年 11月2日(日)・3日(月祝)	第2回講義 (2・3のいずれかの日を選択)
2014年 10月中旬～2015年 1月	実活動体験 (3回以上の選択)、レポートの提出
2015年 2月7日(土)	スポーツボランティア育成講座「修了証授与式」

### (4) 事業内容の詳細

#### ① 運営・管理主体と協力団体

市民スポーツボランティア SV2004 とグランディ・21 ボランティアの両団体の担当者が、講座の実際的な計画と運営を行った。ボランティアの実活動体験については関連する団体との連絡調整を行い、詳細な実施計画を立てて、活動の管理・運営に当たった。実施運営の実務は協力団体と分担した。

図表 3-14 仙台市「中高生のボランティア育成講座」運営体制図



## ②事業の周知

以下の団体経由で、事業の周知と参加者の募集を行った。

図表 3-15 事業の周知と参加者の募集

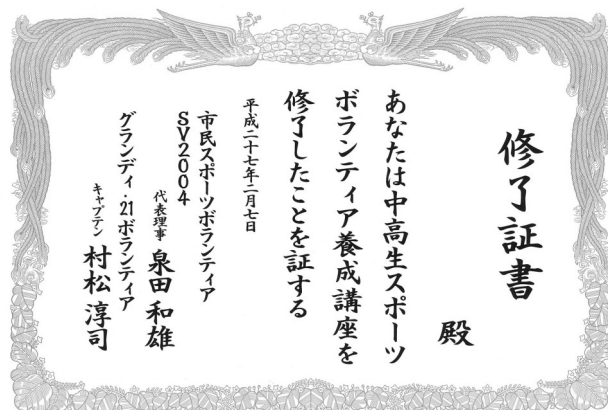
発信団体	方法
笹川スポーツ財団	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仙台市長及び仙台市教育委員会教育長宛てに後援申請し、告知協力を得た</li> <li>・ 宮城県教育委員会教育長宛てに後援申請し、告知協力を得た</li> </ul>
仙台市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仙台市教育局総務企画部健康教育課からチラシの配布及び教頭・部活顧問への電話説明</li> </ul> <p>バスケットボールやサッカーのリーグ戦会場に近いエリアの比較的規模の大きい中学校(5校)を対象とし、体験学習担当の教員(各100部)、バスケットボール部とサッカー部(各50部)に対してチラシを配布。仙台市内の市立高校にチラシを配布(200部)</p>
市民スポーツボランティア SV2004	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民スポーツボランティア SV2004 ウェブサイト</li> <li>・ ボランティアネットワーク(約300人)へのメール発信</li> <li>・ 河北新報社へのリリース配信</li> </ul>



説明会に参加する中高生



講習会に参加する中高生



スポーツボランティア育成講座終了証



修了認定バッジ

### ③ 中高生のスポーツボランティア育成講座の開催

以下のようなプログラムからなる中高生のスポーツボランティア育成講座を開催した。修了の条件は、講座の受講と少なくとも3回以上の実活動体験の実施とレポート提出である。

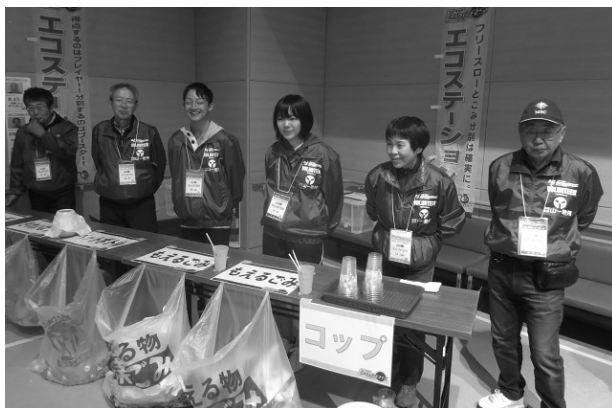
図表 3-16 中高生のスポーツボランティア育成講座のプログラム

プログラム	実施者数	日時	概要
説明会 第1講義	28人	10月11日(土) 又は19日(日) 9:30~11:30	主な内容: 1. 本事業の説明 2. 「スポーツボランティア入門」 3. 「楽天イーグルスにおけるスポーツボランティア」 ※同内容を2回開催
第2講義	17人	11月2日(日) 又は3日(月・祝) 9:30~11:30	主な内容: スポーツ舞台を支える ~スポーツマネジメントの役割~ ※同内容を2回開催
実活動体験	22人	—	・ あらかじめ講座受講者向けに設定されたボランティア活動から、少なくとも3回(3日)の実活動体験を行った。実活動体験においては、協力団体が指定した時間、場所、活動内容に合わせて、ボランティア活動を行った。 ・ 活動当日は、ボランティア活動経験が豊富な市民スポーツボランティアSV2004、若しくはグランディ・21ボランティアが、中高生のサポートに付きながら活動を実施した。
レポート作成	22人	—	・ 実活動体験を終えるごとにA4用紙1枚程度のレポートを作成させた。レポートの形式は自由とし、ボランティア活動の感想、意見等を記述させた。また、講義と全ての実活動体験修了後に講座レポートを提出させた。
「スポーツボランティア育成講座」修了証授与式	48人	2月7日(土) 13:00~16:30	主な内容: 1. 基調講演「スポーツとボランティアの関わり方~2020年に向けて~」 2. 修了証授与 3. 応援メッセージ・ビデオメッセージ(活動チームから) 4. 修了生記念写真 5. 懇親会 中高生15人、保護者含む一般33人が参加した。

各協力団体におけるボランティア活動日程、参加者数、活動内容は以下のとおりである。

図表 3-17 中高生のスポーツボランティア育成講座の実活動体験日程

No	月日	活動時間	チーム名	試合・イベント内容	会場	参加人数	活動内容
1	10/26(日)	9:30-16:00	ベガルタ仙台	13:00キックオフ 柏レイソル戦	ユアテックスタジアム仙台	3	入場口対応・エコステーション・チケットチェック
2	11/22(土)	15:30-21:00	ベガルタ仙台	19:00キックオフ セレッソ大阪戦	ユアテックスタジアム仙台	7	入場口対応・エコステーション・チケットチェック
3	10/25(土)	15:50-21:00	仙台89ERS	18:00試合開始 埼玉戦	仙台市青葉体育館	2	活動説明・エコステーション・チケットのもぎり・サイン会体験
4	10/26(日)	11:50-17:00	仙台89ERS	14:00試合開始 埼玉戦	仙台市青葉体育館	1	活動説明・エコステーション・サイン会体験
5	11/15(土)	15:50-21:00	仙台89ERS	18:00試合開始 富山戦	仙台市体育館	2	キッズパーク・エコステーション・サイン会体験
6	11/16(日)	11:50-17:00	仙台89ERS	14:00試合開始 富山戦	仙台市体育館	8	キッズパーク・エコステーション・のぼり撤去・サイン会体験
7	11/22(土)	15:50-21:00	仙台89ERS	18:00試合開始 大分戦	仙台市青葉体育館	0	
8	11/23(日)	11:50-17:00	仙台89ERS	14:00試合開始 大分戦	仙台市青葉体育館	0	
9	12/6(土)	15:50-21:00	仙台89ERS	18:00試合開始 奈良戦	ゼビオアリーナ仙台	5	チケットのもぎり・案内・エコステーション
10	12/7(日)	10:20-17:00	仙台89ERS	14:00試合開始 奈良戦	ゼビオアリーナ仙台	9	チケットのもぎり・案内・エコステーション
11	12/20(土)	14:20-21:00	仙台89ERS	18:00試合開始 群馬戦	仙台市体育館	4	キッズパーク・エコステーション・サイン会体験
12	12/21(日)	10:20-17:00	仙台89ERS	14:00試合開始 群馬戦	仙台市体育館	3	キッズパーク・エコステーション・サイン会体験
13	1/17(土)	15:50-21:00	仙台89ERS	18:00試合開始 秋田戦	ゼビオアリーナ仙台	6	チケットのもぎり・案内・エコステーション
14	1/18(日)	10:20-17:00	仙台89ERS	14:00試合開始 秋田戦	ゼビオアリーナ仙台	5	チケットのもぎり・案内・エコステーション
15	10/25(土)	9:00-16:00	グランディ・21	フリスポ2014	ひとめぼれスタジアム宮城	0	
16	10/26(日)	9:00-16:00	グランディ・21	フリスポ2014	ひとめぼれスタジアム宮城	0	
17	11/29(土)	11:30-17:00	仙台 ベルフィーユ	13:00試合開始 PFU vs GSS 仙台 vs 柏	富谷スポーツセンター	1	案内・エコステーション
18	11/30(日)	10:30-16:00	仙台 ベルフィーユ	12:00試合開始 PFU vs 柏 仙台 vs GSS	富谷スポーツセンター	1	案内・エコステーション
19	12/20(土)	11:30-17:00	仙台 ベルフィーユ	13:00試合開始 PFU vs JAぎふ 仙台 vs 大野石油	元気フィールド仙台	2	案内・エコステーション
20	12/21(日)	10:30-16:00	仙台 ベルフィーユ	12:00試合開始 PFU vs 大野石油 仙台 vs JT	元気フィールド仙台	1	案内・エコステーション
21	1/31(土)	11:30-17:00	仙台 ベルフィーユ	13:00試合開始 柏 vs GSS 仙台 vs 熊本	ゼビオアリーナ仙台	2	案内・エコステーション
22	2/1(日)	10:30-16:00	仙台 ベルフィーユ	12:00試合開始 KUROBE vs GSS 仙台 vs 柏	ゼビオアリーナ仙台	0	



実活動体験①エコステーション



実活動体験②サイン会での選手サポート

### 3. トライアル事業の効果検証

---

#### 3. 1 トライアル事業の目的と主な検証項目

各トライアル事業の目的と主な効果検証項目については、以下のとおりである。

##### (1) スポーツボランティアの育成及び組織の創設支援（岡山県） 【立ち上げ期→基盤構築期】

新たなスポーツボランティア組織の立ち上げ期の事例として、募集、養成、組織化するまでの一連の流れを検証し、一般化を試みることを目的として実施した。

###### 【主な効果測定項目】

- ・ 募 集：募集・広報の方法
- ・ 養 成：研修内容、参加者の意識変容
- ・ 組織化：各組織の連携協力状況

##### (2) スポーツイベントボランティアの活動活性化支援（広島市） 【基盤構築期→変容・発展期】

設立 14 年を過ぎ、活動の固定化、ボランティアの活動満足度の低さが運営側から課題として挙げられている。活動の維持・継続に向けて、活動内容の拡大、活動満足度の向上、若年層の確保など組織活性化を目的としたトライアル事業を実施し、その効果を検証することで、有効な取組を抽出することを目的として実施した。

###### 【主な効果測定項目】

- ・ 募 集：若年層ボランティアの募集方法
- ・ 養 成：若年層ボランティア向けの研修内容、研修参加者の意識変容
- ・ 組織化：セミナー参加や新規ボランティアの加入による既登録者の活動満足度の変化、研修受講者の今後の活動意向

##### (3) 中高生のスポーツボランティア育成講座の開設支援（仙台市）【基盤構築期→充実・継続期】

スポーツボランティア団体間の連携により、中高生ボランティアの育成を図り、団体間及び教育委員会とのネットワークを構築することを目的としたトライアル事業を実施し、新たな取組の有効性を検証した。

###### 【主な効果測定項目】

- ・ 募 集：団体連携による中高生ボランティアの育成・確保の状況
- ・ 養 成：研修内容（教委連携、研修内容）、研修に参加した中高生ボランティアの意識変容
- ・ 組織化：団体間のネットワーク構築の状況、プログラム参加者の今後の活動意向

### 3. 2 検証項目一覧

スポーツボランティア組織に対するトライアル事業の評価について、ボランティア組織の活動過程に応じて、募集、養成、組織化、活動、その他の5区分に分類し、それぞれについて望ましい効果、及びその評価・分析指標を整理し、図表3-18に取りまとめた。

表中の「○」は、各トライアル事業において評価・分析対象とした指標であることを示す。

図表 3-18 トライアル事業の評価指標

分野	トライアル事業の効果	トライアル事業の評価・分析指標	岡山	広島	仙台
1. 募集	1.1 ボランティア数の増加	研修・講習会参加者数・参加者属性(未経験者、経験者)	○	○	○
		セミナー・シンポ・修了式参加者数・参加者属性(未経験者、経験者)	○	○	○
		新規ボランティア登録者数・登録者属性(未経験者、経験者)	○	○	○
	1.2 効果的な募集経路の確立	募集・案内の配布数、配布先	○	○	○
		募集・案内の配布先別の参加者数、配布数	○	○	○
2. 養成	2.1 活動につながる研修・セミナーの実施	研修・セミナーの理解度	○	○	○
		研修・セミナーの満足度	○	○	○
		プログラム終了後の活動意欲	○	○	○
		ボランティア養成プログラム受講意欲		○	
		リーダー研修受講意欲	○	○	
	2.2 ボランティア、ボランティアリーダーの育成	ボランティア研修受講者数、終了者数	○		○
		リーダー研修受講者数、終了者数	○		
ニーズに応じた研修の実施状況				○	
3. 組織化	3.1 運営・活動基盤の構築	事務局機能の整備			○
		事務局機能の負担軽減			○
	3.2 関係者の理解	関係者の認知、理解		○	○
		一般市民の認知、理解	○	○	○
	3.3 ボランティアの活動意欲の維持	ボランティアの今後の活動意欲	○	○	○
		ボランティアの活動ニーズの把握		○	○
		ボランティア活動の満足度			○
	3.4 関係機関との連携確保	行政との関係構築	○		○
		他のスポーツ団体との関係構築	○	○	○
		その他団体との関係構築	○	○	○
4. 活動	4.1 活動の活発化	活動回数		○	○
		活動人数(実人数、延べ人数)		○	○
		多様な活動機会提供の状況		○	○
	4.2 活動の質の担保	活動目的の達成状況		○	○
		活動内容のフィードバック機会の設定		○	○
5. その他	5.1 多様な効果の発生	団体、地域、活動先への効果発生	○	○	○



### 3.3 トライアル事業の効果検証

#### (1) スポーツボランティアの育成及び組織の創設支援（岡山県） 【立ち上げ期→基盤構築期】

岡山県で実施したトライアル事業「スポーツボランティアの育成及び組織の創設支援」の効果検証結果は以下のとおりである。

図表 3-19 効果検証(岡山県)

評価指標	実績
<b>1.1 募集:ボランティア数の増加</b>	
・ スポーツボランティア研修会参加者は 42 人(うち、岡山県内者 30 人)、うちスポーツボランティア・リーダー養成講習会参加者は 23 人(うち、岡山県内 18 人)であり、スポーツボランティアの育成が図られた。	延べ研修受講者数 65 人
・ シンポジウム参加者は 36 人(うち、岡山県内者 33 人)であった。	シンポジウム参加者 36 人
・ スポーツボランティア・リーダー養成研修会及びシンポジウム参加者のうち 55%が、ボランティア組織が設立された場合には登録したいと回答した。	ボランティア登録意向 55%
<b>1.2 募集:効果的な募集経路の確立</b>	
・ 連携先である公益財団法人岡山県体育協会及び協力先である NPO 法人日本スポーツボランティアネットワークの協力を得て募集・案内を行った。	案内配布数 1,799 枚
・ 研修の情報の入手経路は、「日本スポーツボランティアネットワークの HP 又は Facebook」(36%)が最も多く、次いで「岡山県体育協会の HP 又は案内」(27%)、「友人・知人からの紹介」(18.2%)であった。 ・ 県内 27 自治体(15 市 10 町 2 村)のうち 13 自治体(10 市 3 町)、全体の 48%の自治体から、本事業への参画が得られた。また、県内の主要なスポーツ関係者からの参画があったことは評価できる。 ・ 一方で、トップスポーツチーム、大学からの参画は少数であった。	県内自治体参加率 48%
<b>2.1 養成:活動につながる研修・セミナーの実施</b>	
・ 研修会の難易度は、5 段階評価(1.簡単、5.難しい)でスポーツボランティア研修会は 2.71、スポーツボランティア・リーダー養成研修会は 2.96 であり、難易度は適当であったと言える。	平均難易度 2.71～2.96/5.00
・ スポーツボランティア研修会、スポーツボランティア・リーダー養成研修会の満足度は、5 段階評価で平均 4.56～4.57 と高評価であった。	平均満足度 4.56～4.57/5.00
・ スポーツボランティア研修会参加者の 90%、スポーツボランティア・リーダー養成研修会参加者の 83%、シンポジウム参加者の 87%が今後、スポーツボランティアとして活動したいと回答した。	活動意欲 83～90%
・ スポーツボランティア研修会参加者の 62%、スポーツボランティア・リーダー養成研修会参加者の 65%、シンポジウム参加者の 87%が今後もスポーツボランティア養成講習会に参加したいと回答した。	研修受講意欲 62～87%
・ スポーツボランティア研修会参加者の 42%がスポーツボランティア・リーダー養成研修会に参加したいと回答した。	リーダー研修受講意欲 42%
<b>2.2 養成:ボランティア、ボランティアリーダーの育成</b>	
・ スポーツボランティア 42 人(うち、岡山県内者 30 人)を養成した。	ボランティア育成数 42 人
・ スポーツボランティア・リーダー 23 人(うち、岡山県内者 18 人)を養成した。	リーダー育成数 23 人
<b>3.1 組織化:運営・活動基盤の構築</b>	
・ 本トライアル事業の評価・分析対象外。	—

評価指標	実績
<b>3.2 組織化:関係者の理解</b>	
・ 主催事業には、県内 13 自治体(48.1%)及び県内スポーツ関連組織・団体の関係者が参加し、県内のステークホルダーに対してスポーツボランティアが浸透した。	県内主要関係者の事業参加
・ スポーツボランティア研修会に、スポーツボランティア未経験者が 23%参加するなど、一般市民への理解が得られた。	研修会へのスポーツボランティア未経験者参加 23%
<b>3.3 組織化:ボランティアの活動意欲の維持</b>	
・ 【再掲】スポーツボランティア研修会参加者の 90%、スポーツボランティア・リーダー養成研修会参加者の 83%、シンポジウム参加者の 87%が今後、スポーツボランティアとして活動したいと回答した。	活動意欲 83~90%
<b>3.4 組織化:関係機関の連携確保</b>	
・ 【再掲】県内の 13 自治体(岡山県内の自治体の 48.1%)から、本事業への参画があった。	県内自治体参加率 48%
・ 県内スポーツ関連組織・団体である「市町村スポーツ行政担当者」「市町村体育協会」「スポーツ推進委員」「総合型地域スポーツクラブ」「スポーツ少年団」「大学」「おかやまマラソン大会実行委員会事務局」等から本事業へ参画があった。	主要スポーツ団体の参画数 10 団体
・ スペシャルオリンピックス日本・岡山、スポーツボランティアを大学のカリキュラムに取り入れている環太平洋大学とのネットワークが構築できた。	その他団体の参画数 2 団体
<b>4.1 活動:活動の活発化</b>	
・ 本トライアル事業の対象外。	—
<b>4.2 活動:活動の質の担保</b>	
・ 本トライアル事業の対象外。	—
<b>5.1 その他:多様な効果の発生</b>	
・ 岡山県真庭市では、市の依頼により、「真庭市スポーツ少年団指導者研修会」においてスポーツボランティアに関する講演を行った。また、総合型地域スポーツクラブと市体育協会の関係者の計 3 人がスポーツボランティア・リーダー認定を得ており、今後の展開が期待される。	地域内での展開 1 地域

スポーツイベントボランティアの活動活性化支援（広島市） 【基盤構築期→変容・発展期】

広島市で実施したトライアル事業「スポーツイベントボランティアの活動活性化支援」の効果検証結果は以下のとおりである。

図表 3-20 効果検証(広島市)

評価指標	実績
<b>1.1 募集:ボランティア数の増加</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>「スポーツボランティアシンポジウム 2014 in 広島」は事前申込み 88 人、参加者 86 人であった。また、「若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA」は事前申込み 45 人、参加者 35 人であった。</li> <li>若者向けに特化した告知を実施せずに開催した8月のシンポジウムでは、参加者のうち 20 代の占める割合は 5.8%であったが、タイトルに「若者」の言葉を使い、市内 12 大学に告知して開催したセミナーでは、20 代の占める割合が 45.7%と約半数を占めた。若者の参画を促す一つの方法としては一定の効果があったと考える。</li> </ul>	シンポジウム、セミナー 延べ参加者数 121 人
<ul style="list-style-type: none"> <li>「若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA」参加者のうち 20 代までの参加者の 18%が、ボランティアに登録したいと回答した。</li> <li>大学などでも募集があること、今後広島で生活するか未定等の理由により、活動意欲の高さに対して登録希望は多くはなかった。</li> </ul>	ボランティア登録意向 18%
<b>1.2 募集:効果的な募集経路の確立</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>連携先である広島市スポーツ協会を通じて、スポーツイベントボランティア登録者、広島市スポーツ協会加盟団体、広島市スポーツ協会役員等、中国新聞社、市内大学(12 大学)への直接訪問によるセミナー(1/24)の説明・案内、ウェブサイト掲載を実施した。また、サンフレッチェ広島ホームゲームでのチラシ配布、広島経済大学内での案内を実施した。</li> </ul>	案内配布数 3,500 枚
<ul style="list-style-type: none"> <li>「若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA」の情報の入手経路は、「大学関係者からの紹介」「講師からの紹介」(38.5%)が最も多く、次いで「広島市スポーツ協会のウェブサイト又は案内」(23.1%)であった。</li> <li>広島市内にある 12 大学に告知をし、1/3 の 4 大学から 15 人の参加があったことは一定の成果と評価している。</li> <li>大学にはボランティアセンターやボランティア担当職員がいることもあり、体育系・スポーツ系の学部以外の大学でも大学への告知が有効であることが分かった。一方で、開催日程が多く大学の試験期間と重なったことから、大学生を対象とする場合には、大学行事の確認が重要である。</li> <li>主たる活動場所である、サンフレッチェ広島のホームゲームでもチラシを配布したが、チームの応援に来るファンやサポーターには、ホームゲーム会場内でのボランティア活動にはあまり興味関心を示してもらえないことが確認できた。</li> </ul>	市内参加大学数 4 大学/12 大学
<b>2.1 養成:活動につながる研修・セミナーの実施</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>「若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA」の 20 代までの参加者の 85%が満足(満足+やや満足)と回答した</li> </ul>	平均満足度 85%
<ul style="list-style-type: none"> <li>「若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA」の 20 代までの参加者の 58%が今後、スポーツボランティアとして活動したいと回答した。</li> </ul>	活動意欲 58%
<ul style="list-style-type: none"> <li>「若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA」20 代までの参加者 33%が今後もスポーツボランティア養成講習会に参加したいと回答した。</li> </ul>	研修受講意欲 33%
<b>2.2 養成:ボランティア、ボランティアリーダーの育成</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>本トライアル事業の評価・分析対象外。</li> </ul>	—
<b>3.1 組織化:運営・活動基盤の構築</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>本トライアル事業の評価・分析対象外。</li> </ul>	—

評価指標	実績
<b>3.2 組織化:関係者の理解</b>	
・「スポーツボランティアシンポジウム 2014 in 広島」に、トップチームのボランティア担当者、ボランティアの代表者、活動場所のスポーツ施設管理者、スポーツボランティアの専門家等が一堂に会し、フロアの参加者約90人も加わり、今後の広島のスポーツボランティアの可能性について考える機会が提供できた。	県内主要関係者の事業参加
・「スポーツボランティアシンポジウム 2014 in 広島」や「若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA」の開催を通じて、一般市民への理解が得られた。	—
<b>3.3 組織化:ボランティアの活動意欲の維持</b>	
・【再掲】「若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA」の20代までの参加者の58%が今後、スポーツボランティアとして活動したいと回答した。	活動意欲 58%
・「若者が集うスポーツボランティア・セミナー in HIROSHIMA」のアンケートを通じて、活動ニーズを把握した。20代までの参加者のうち、各チームでの活動を希望する割合は、「サンフレッチェ広島」46%、「広島東洋カープ」38%、「広島ライトニング」31%、「広島ドラゴンフライズ」23%であった。	—
<b>3.4 組織化:関係機関の連携確保</b>	
・バスケットボールのプロリーグ「広島ドラゴンフライズ(NBL)」、「広島ライトニング(bj チャレンジリーグ)」から本事業の参画があった。	新規団体参画 2 団体
・トライアル事業(仙台)の協力団体である、市民スポーツボランティア SV2004との関係を構築した。また、今後、日本スポーツボランティアネットワーク(JSVN)への加入を検討するなど、本事業が関係機関とのネットワーク拡大の契機となった。	—
<b>4.1 活動:活動の活発化</b>	
・広島東洋カープではホームの全60試合で活動、サンフレッチェ広島ではホームの20試合(リーグカップ戦の上位進出で変動あり)を基本として活動し、今後も継続していく。	年間活動回数 92 回
・広島東洋カープでは1試合当たり約27人、サンフレッチェ広島では1試合約48人が活動している。	延べ活動人数 2,504 人
・活動機会の拡大のニーズに対応するため、バスケットボールのプロリーグ「広島ドラゴンフライズ」、「広島ライトニング」からボランティア募集の情報を発信し、スポーツボランティアの新たな活動機会の提供へつなげることができた。	新規ボランティア先の開拓 2 団体
<b>4.2 活動:活動の質の担保</b>	
・【活動目的の達成状況】	—
・イベント主催者であるサンフレッチェ広島、広島東洋カープのボランティア担当者より、広島市スポーツ協会から派遣を受けているスポーツイベントボランティアに対する問題点や課題を聞き、その解決策の一助となる取組を実施できた。	—
<b>5.1 その他:多様な効果の発生</b>	
・スポーツイベントボランティア登録者の数人が、トライアル事業(岡山)で実施した、「スポーツボランティア研修会」「スポーツボランティア・リーダー養成研修会」に参加し、リーダーの認定を受けるなど、自身で学びの場を求めて活動する事例があった。本事業間の相乗効果とも言える。	—

(2) 中高生のスポーツボランティア育成講座の開設支援（仙台市）【基盤構築期→充実・継続期】

仙台市で実施したトライアル事業「中高生のスポーツボランティア育成講座の開設支援」の効果検証結果は以下のとおりである。

図表 3-21 効果検証(仙台市)

評価指標	実績
<b>1.1 募集:ボランティア数の増加</b>	
・ 中高生を対象とした「スポーツボランティア育成講座」を実施し、申込者は 29 人であった。	養成講座参加者数 29 人
・ 「スポーツボランティア育成講座」修了証授与式及び講演に中高生 15 人、一般 33 人が参加した。	養成講座修了証授与式参加者数 48 人
・ 「スポーツボランティア育成講座」修了者のうち 93%が、スポーツボランティアとして活動したいと回答した。	ボランティア活動希望 93%
<b>1.2 募集:効果的な募集経路の確立</b>	
・ 仙台市教育局総務企画部健康教育課から、ボランティア活動を行う会場に近いエリアの比較的規模の大きい中学校(5 校)の地域連携担当の教員(各 100 部)、バスケットボール部とサッカー部(各 50 部)、仙台市内の市立高校(200 部)にチラシを配布した。また、市の担当者から対象校の教頭・部活顧問への電話説明も併せて実施した。	案内配布数 1,200 枚
・ 「スポーツボランティア育成講座」参加者の情報の入手経路は、「部活動で案内を配布された」(33.3%)、「学校で案内を配布された」22%、「チラシを見て」22%、「友人・知人からの紹介で」17%であった。 ・ 仙台市教育局の協力を得たことにより、学校に対して効果的な広報を展開でき、結果、中学校 5 校、高等学校 3 校から 29 人が参加した。	市内参加学校数 8 校
<b>2.1 養成:活動につながる研修・セミナーの実施</b>	
・ 講習会への参加動機は、「ボランティア活動に興味がある」72%と最も高く、次いで「友人・知人に誘われたから」38%、「東京オリンピックでの活動に興味がある」33%であった ・ 「実活動体験」について、「やや簡単」40%、「どちらでもない」27%、「やや難しい」33%であった。「やや難しい」と回答したのは全員が中学 1、2 年生であった。	—
・ 「実活動体験」について参加者の 93%が満足(満足+やや満足)と回答した。また、「スポーツボランティア育成講座」については 100%が満足と回答した。	平均満足度 100%
・ 【再掲】「スポーツボランティア育成講座」修了者のうち 93%が、スポーツボランティアとして活動したいと回答した。	活動意欲 93%
<b>2.2 養成:ボランティア、ボランティアリーダーの育成</b>	
・ 「スポーツボランティア育成講座」参加者 29 人のうち、22 人が修了した。	養成講座修了者数 22 人
・ 来年度から「スポーツボランティア育成講座ステーション」において、実活動体験後に提出されたレポートに対して、意見等を返す仕組みを設ける予定である。	—
<b>3.1 組織化:運営・活動基盤の構築</b>	
・ 市民スポーツボランティア SV2004 とグランディ・21 ボランティア内に「スポーツボランティア育成講座」実施ステーションを設置し、ステーションには両団体から担当者を出し、講座の実際的な計画と運営を行う予定であったが、今回は設置できなかった。	—
・ 次年度以降は、4 月にスポーツボランティア育成講座の参加者募集を開始し、通年での育成を行う。また、スポーツコミッションせんだい内に「スポーツボランティア育成講座」実施ステーションを設置し、講座の運営を行う予定である。	—

評価指標	実績
<b>3.2 組織化:関係者の理解</b>	
・ 宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、仙台のトップスポーツチームのスポーツボランティア組織・団体、ボランティアの NPO との協力により、トライアル事業を実施した。	県内主要関係者の事業参加
<b>3.3 組織化:ボランティアの活動意欲の維持</b>	
・ 実活動体験の受入れ協力団体から、事業終了後も、参加中高生のボランティア活動への受入れ希望があった。 ・ 「スポーツボランティア育成講座」修了者のうち 93%が、今後もボランティア活動をしたいと回答した。	活動意欲 93%
・ 修了式参加者のうち、各チームでの活動を希望する割合は、「仙台 89ERS」71%、ペガルタ仙台 47%、東北楽天ゴールデンイーグルス 43%、グランディ・21 ボランティア 43%、仙台ベルフィーユ 7%であった。	—
<b>3.4 組織化:関係機関の連携確保</b>	
・ 宮城県教育委員会に加えて、仙台市教育委員会の理解、協力が得られ、今後、仙台市内で有機的な連携の構築が期待できる。	—
・ 本事業の実施において、仙台のトップスポーツチームのスポーツボランティア組織・団体、ボランティアの NPO からの理解、協力が得られ、今後、仙台市内で有機的な連携の構築が期待できる。	—
・ スポーツコミッションせんだい(2014 年 12 月設立)との協力関係が築けた。	—
<b>4.1 活動:活動の活発化</b>	
・ 育成講座における活動機会は 4 団体 22 回用意され、うち 17 回に中高生が参加した。	育成講座における活動機会 22 回
・ 育成講座における中高生によるスポーツボランティア活動は、延べ 62 人であった。	育成講座における延べ活動人数 62 人
・ 協力団体からは、中高生がボランティア活動に加わることで、既存の登録ボランティアが、刺激を受けて生き生きと活動しており、既存のベテランのボランティアにとっても、有意義な事業であったとの意見があった。	—
<b>4.2 活動:活動の質の担保</b>	
・ 【活動目的の達成状況】	—
・ 【活動内容のフィードバック機会の設定】	—
<b>5.1 その他:多様な効果の発生</b>	
・ 広島市スポーツ協会(広島県広島市)、広島経済大学松本耕二研究室、市民スポーツボランティア SV2004 の三者によるネットワークが構築でき、今後、定期的な情報交換や連携した事業の実施を検討している。	—

### 3. 4 トライアル事業のまとめと今後の展開

#### (1) トライアル事業のまとめ

本トライアル事業は、地域におけるスポーツボランティア組織等を活性化する具体的な方策を検討、提案することを目的とし、試行的な事業の実施を通して、課題及び改善方策の仮説検証を行うことであった。スポーツボランティア組織の課題は、組織のライフサイクルによって異なることが想定されることから、スポーツボランティアのライフサイクルが異なる3つの組織・団体を選定し事業を実施した。

#### ① トライアル事業の効果

本トライアル事業を通して得られた成果を、以下にまとめて報告する。

##### ○若年層ボランティアの発掘・育成方策の提示

既存のスポーツボランティア組織・団体が抱える課題である「新たなボランティアの参画」「ボランティアの高齢化・固定化」に対して、中学生、高校生、大学生を対象にボランティアの発掘・育成を目的とした事業を実施した。大学生にはスポーツボランティアの概論、活動に必要なコミュニケーションスキル、実際の活動現場の報告や募集情報等を講義し、中高生には講習とボランティア体験活動を組み合わせたプログラムを実施した。どちらも今後のスポーツボランティアの活動意欲を高めるには有効であることが確認できた。また、中高生プログラムでは、中学1年から高校3年生まで、ボランティア活動や2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会での活動に興味を持って参加することが確認できた。さらに、プログラム終了後、活動の継続を希望する者が多数いたことから、本事業での取組は若年層ボランティアの発掘・育成に、一定の成果が得られた。

##### ○既存ボランティアの活動意欲の向上

リーダー的な存在である既存のボランティアが、セミナーやシンポジウムなどの学びや交流の機会を得ることによって、より発展的な活動への意欲を見せた。さらに、他のトライアル事業のリーダー養成研修を受講し、リーダー認定を受けるなど、自身で学びの場を求めて活動する事例などがあり、本トライアル事業間の相乗効果も見られた。また、特に中学生や高校生と接することで、既存のボランティアが活気付く好影響が見られたことも成果であった。

##### ○スポーツボランティアに関わる既存のステークホルダーとの関係構築

イベント主催者、ボランティア個人、ボランティア組織・団体が一堂に会する機会を設けたことにより、それぞれの立場からの意見を交換し、関係を構築するきっかけとなった。また、既存のスポーツボランティア組織・団体の、今後の事業の発展的な展開・活動の足掛かりとなったことも成果であった。

##### ○新たな外部組織との連携・協力の体制強化

スポーツボランティアを地域で普及・振興していく際の外部組織として、地域のスポーツ関係団体(体育協会、競技団体、スポーツ少年団、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ等)、スポーツ行政、教育機関(中学・高校・大学)、トップスポーツチーム、マスコミ等との新たな連携が築けた。また、本事業を実施することにより、地域の障害者スポーツや教育機関の中でスポーツボランティアに取り組んでいた組織・団体の存在が明らかとなり、新たなスポーツボランティアのネットワークが構築できたことも成果であった。また、各トライアル事業においては、マスコミの取材・告知協力も得られ、広く一般にスポーツボランティアに関する情報発信ができたことも成果であった。

## ② 課題と解決方策

### ○若年層へのアプローチ先及び方法の検討

中学校・高等学校へは、教育委員会の協力を得て各学校の地域連携の担当教員及び運動部活動の顧問を通じて案内した。大学へは、主催者が直接訪問し、ボランティアセンターやボランティアサークルを通じての告知を依頼した。これらのアプローチ先及び方法は一定の成果が見られた。

一方でトップチームの試合会場に集まる応援者にも多くのチラシを配布したが、チームの応援とチームの試合運営を支えるボランティア活動は目的が異なることから、学校や大学以上の成果は見られなかった。教育機関を経ない一般の若年層へのアプローチの方法としては、今後、Facebook や Twitter、LINE などの SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の活用も試みるべきと考える。

### ○若年層のライフスタイルに合わせた説明会等の開催

大学生を対象としたセミナーでは、開催日程が幾つかの大学の試験期間と重なってしまい、多くの参加が得られなかった。また、中高生を対象としたプログラムでは、部活動の練習時間との関係で、1日に複数の時間帯で説明会を実施することになった。若年層向けに事業を進める際には、大学や学校の行事(テスト期間や学園祭など)、部活動の予定(大会期間など)を考慮し、同じ内容で複数回実施し、参加機会の選択肢を増やす対応が必要であることが分かった。

### ○地域のコーディネーター役となる人材や組織の発掘・育成

活動経験が豊富なボランティアは、やりがいと充実感のある活動でないと満足度が低くなり、該当イベントでの活動は継続しなくなる。活動経験が少ないボランティアにとっては、ボランティア活動から離れてしまう可能性がある。地域のスポーツボランティアを活性化するためには、今後、ボランティアを必要とする者(イベント主催者など)の意向と、ボランティアをマッチングさせる調整役となる人材や組織の存在が重要となってくる。地域におけるコーディネーター的な人材や組織の発掘・育成が求められる。

### ○スポーツボランティアの正しい理解・認識の発信

スポーツボランティアに多くの組織・団体、個人が関わってもらうためには、スポーツボランティアに対する正しい理解と認識を広める必要がある。併せてスポーツボランティアの楽しさややりがいなどの魅力も伝えることが、新たなスポーツボランティアの参加者を増やすことにもつながる。具体的には、スポーツボランティアについて学べる機会や実際に体験できる機会を提供し、スポーツボランティアの魅力を感じてもらうことである。スポーツボランティアを可視化できる事例集やガイドブックなどの作成・提供も重要である。

## (2) トライアル事業の今後の展開

### ① スポーツボランティアの育成及び組織の創設支援(岡山県)【立ち上げ期→基盤構築期】

岡山県体育協会においては、当初からスポーツボランティアの組織化をする予定はなく、本事業をきっかけに、県内各地域・活動スポーツ現場で、スポーツボランティアを育成し、活用するきっかけにしたいと考えていた。今後も、スポーツボランティアに関する情報を継続して提供し、県内のスポーツ関連組織・団体におけるスポーツボランティア育成の取組を支援していく予定である。

また、岡山県では 2015 年 11 月 8 日に第1回おかやまマラソンの開催が予定されている。中四国地方最大級のマラソン大会で、14,500 人のフルマラソンと 500 人の 4.5 キロが開催される。ボランティアの募集人数は 4,000 人を予定しており、岡山県民にとっては、身近なところでの大規模スポーツイベントでのボランティアの活動機会となる。本事業の参加者や育成されたボランティア、認定されたボランティアリーダー



が、おokayamaマラソンのボランティアとして活動することが期待できる。岡山県体育協会とおokayamaマラソン実行委員会事務局は、今後も連携してボランティア募集・養成に取り組む予定である。

## ② スポーツイベントボランティアの活動活性化支援（広島市）【基盤構築期→変容・発展期】

広島市スポーツ協会は、登録ボランティアに対しての研修事業を、来年度以降も今年度と同様に年1回実施する予定である。また、本事業をきっかけに、仙台市のスポーツボランティア組織や日本スポーツボランティアネットワークとの関係を築くことができ、「スポーツ・サポート・センター」機能の拡充に向けた検討を行う予定である。

また、広島市スポーツ協会は、2015年4月からNPO法人日本スポーツボランティアネットワークの正会員として加盟する予定であり、同ネットワークに加盟することによって、多くのスポーツボランティア募集情報を、登録ボランティアに発信することが可能となることから、多様なボランティア活動を希望する登録者への、新たな活動機会の提供を考えている。さらに、広島市内にバスケットボールのトップチームが新たに2チームでき、それぞれがスポーツボランティアを必要としていることから、これまでの野球とサッカーに加えて、新たなスポーツ環境での活動機会の増加が期待できる。

## ③ 中高生のスポーツボランティア育成講座の開設（仙台市）【基盤構築期→充実・継続期】

仙台市の市民スポーツボランティア SV2004 とグランディ・21 ボランティアでは、仙台市内にある複数のスポーツボランティア組織・団体が抱えるボランティアの高齢化と、宮城スタジアムは2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の会場となる可能性があることから、中高生のボランティアの発掘・育成を事業の核とした。中高生を対象とすることから、関連の行政機関からの協力も、この事業を通じて初めて得られ、今後につながる関係性が構築できた。

来年度以降は、仙台市内で中高生がスポーツボランティア活動に継続して参加できる仕組みを構築していきたいと考えている。具体的には「スポーツコミッションせんだい※」が主体となって継続実施ができるように現在調整中である。新たな運営体制としては、スポーツコミッションせんだい内に「スポーツボランティア育成講座」実施ステーションを設置し、講座の実際的な計画と運営を行う。年間予算は約20万円で、年間予定と新たな運営体制は以下のとおりである。

※スポーツコミッションせんだいは、スポーツを生かした街づくりや地域活性化を目的として2014年12月に設立。仙台市や民間組織（競技団体やプロスポーツ球団、ボランティア組織、報道機関、大学など）約50団体が参加する。事務局は、仙台市スポーツ振興事業団と仙台市が務める。

図表 3-22 仙台市「中高生のボランティア育成講座」の年間予定と新たな運営体制

